評価

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

Ⅰ　自主的・自律的な生活

児童の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
明るく元気な態度で，きまりを守り，けじめのある生活をしようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	①あいさつに対する取り組みで児童の自己評価が昨年度より大幅に上がったことは、子どもたちが日々意識して取り組んでいる証拠と捉える。地域の協力も借りながら課題を克服させたいものだ。②子どもたちからよりよい姿でありたいという意気込みを感じる。教師側の工夫で子どもたちをしっかり支えてやってほしい。③業間時間の変更が学校生活へ好影響を与えていると考えられる。小学校における休み時間は長年課題と感じていたので、これに手を付けた事には意義を感じる。
	年度			

自己評価の概要と学校の改善策

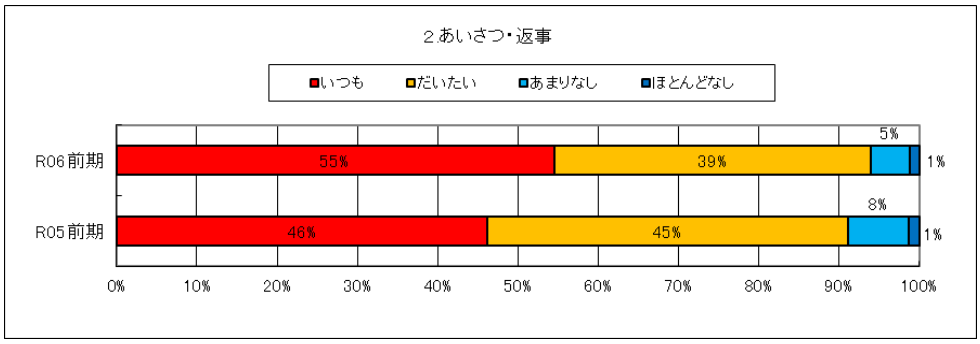
【前期（→年度）】
①「あいさつ・返事」に関する項目は、児童・保護者共に、昨年度前期より数値が上がっている。特に、児童は9ポイントも上がっている。児童自身はがんばっているという意識があるものの、地域の方の声や教職員から見た実態は、「あいさつが返ってこない。」「目が合わない。」「個人差が大きい。」と捉えており、あいさつへの意識の違いが見られる。
②学習の成果を校内で広めたり、委員会からの呼び掛けを放送や掲示板で全校に周知したりするなど、子どもたちが「学校生活をよりよくしていこう」という思いがよく目につくようになった。一方で、放送が混雑したり、内容がマンネリ化したりするという新たな課題も出てきたため、改善していきたい。
③今年度、業間が5分から10分に変更された。このことで、特に教室移動の多い高学年は、余裕をもって次の時間の準備をすることができ、授業の開始時刻も守れるようになった。
＜後期の取組＞
①最低限のあいさつを、「目を見て」から、「大きな声で返す」というレベルに設定し、指導を積み重ねることで底上げをしていきたい。同時に、委員会の取り組みとして、よいあいさつをしている児童に「名人カード」を渡すことで、頑張っている児童が認められる機会も作っていく。
②放送の混雑を解消するために、放送室前に連絡ボードを設置し、各委員会がバランスよく計画的に行えるようにしていく。また、児童の主体性も大切にしながら、内容や日程については、担当が助言をしていく。
③業間の過ごし方については、放送で一斉指導をし、掲示物を活用しながら、全校で統一した指導を行う。また、日々の生徒指導上の諸問題に関しては、後期も生徒指導主事からの放送、全校集会時の話を通して指導していくことを継続する。

【年度（→次年度）】

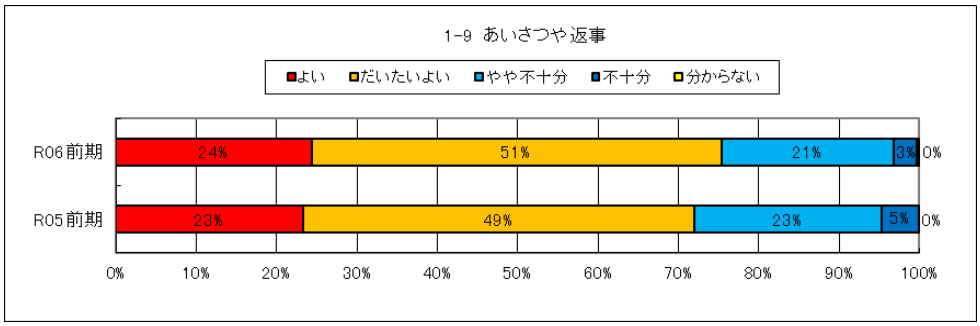
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B 前期	自己評価B 後期
1　基本的な生活習慣	(1)明るく元気なあいさつと時間の厳守	校内外でのあいさつ運動　強調期間の設定による意識化	3	
		学習の始まりの時刻を意識した生活		
2　自主的・実践的な態度	(2)集団の一員として自覚ある行動	児童会活動の充実	4	
		想像力・協働力・発信力の育成		
3　安全な生活	(3)学校のきまりと時間遵守	活動の始まりと終わりの時刻を意識した生活	3	
		生徒指導に関わる情報共有と共通した指導		

※学校教育アンケートから

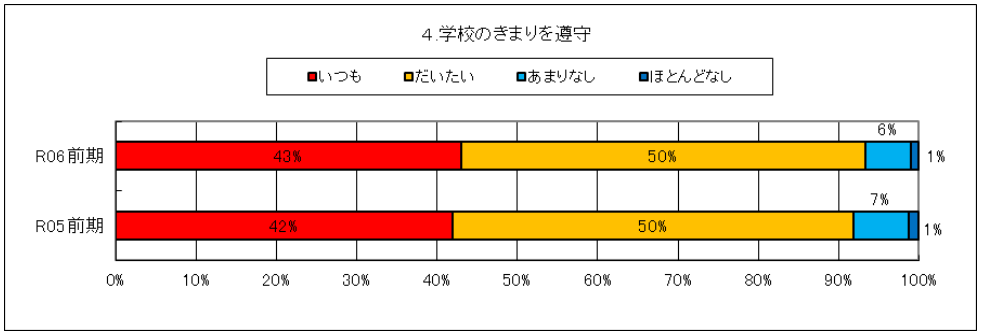
（児童）



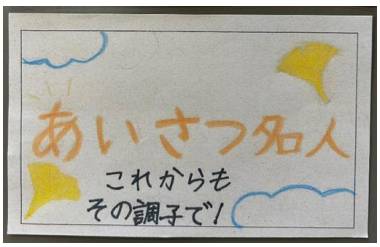
（保護者）



（児童）



今年度から、玄関に委員会の掲示板を設置した。全校へのお知らせや呼び掛け、活動計画などを掲示している。



生活安心安全委員会が作成したあいさつ名人カード。基準に達した児童に配付している。